様式3

学 校 番 号 40

令和3年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立香椎工業高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）			評　価（総　合）
学校運営方針	校訓「自立・協同」のもと、心身を鍛え、心を磨くとともに、高い工業技術・技能を身に付け、国家・社会の有為な形成者となるための知・徳・体の調和のとれた教育を実践する。また、他者との関わりの中で自己の在り方・生き方や使命感を自覚させ、心豊かで力強く、地域や社会から信頼される人材の育成に努める。		A
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
「タフ」で「しなやか」な工業人の育成を図るため「ものづくりは人づくり」～21世紀を勝ち抜く工業人の育成をめざして～、を運営方針として、校訓である「自立・協同」の精神を活かしつつ、次世代の工業人の育成を図ることを実践し昨年度、就職内定率100%をはじめジュニアマイスター取得数で全国上位等の成果を上げることができた。今後、AIを中心とした大きな変革が予想される産業界において、読解力を身に付け創造力のある技術者等を輩出することが本校の大きな使命である。社会に一番近い学校として本校にかかわる全ての人々が、「明るく、楽しく、元気よく」日々教育活動に邁進できる環境を整え、創立60年目となる本年度も「生徒一人ひとりの多様な進路実現」に向け、就職だけでなく公務員や大学進学等への進路指導体制の充実を図る。	キャリア教育の充実	「生徒一人ひとりの多様な進路実現」に向けたカリキュラムの展開を行い、就職だけでなく公務員や大学進学等への進路指導体制の充実を図る。多様な生徒の可能性を伸ばす指導を充実させることで、生徒一人ひとりの多様な進路に応じた教育を行う。また、大学等との接続についても対応を行う。	
	継承されるものづくり・引き継がれる伝統技術を守る	「鎧兜の製作」をはじめとする日本の伝統文化の継承を率先して行い、文献等の調査から読解力を身に付けさせ、伝統文化の継承に尽力する。また、ものづくりをとおして、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、ボランティア活動等を充実し、促進する。	
	授業規律の確立と授業技術を高め、「人を育てる授業」を展開する	「鍛ほめ福岡メゾット」の実践を推進し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた「アクティブラーニング」を行い、探求心の向上を行う。 最先端科学技術の進展・グローバル化・産業構造変化等にともない、必要とされる専門知識・技術も変化及び高度化しているため、教師自らが自己研鑽に励み、ICTを用いた授業づくり、実践学習を通じた学習意欲の向上と維持に努める。そのためには、県内屈指秀逸なる本校施設設備をフル活用し、専門的な技術および知識の定着を行い、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要であり、「課題研究」等の自主的な学習活動をより一層充実させる。	
	修学支援を迅速に進める	転退学を防ぐために生徒サポート委員会を毎月開催し、遅刻や欠席を繰り返す生徒の適切な指導法を協議するとともに、生徒情報を職員会議で適宜報告し組織的対応につなげる。また、担任は学期初めの二者面談や学期終わりの三者面談をとおして生徒理解に努め、生徒の心の変化を見逃さない。	
	組織的な道徳教育の展開	道徳的実践力を高めるため、人としての在り方・生き方を身につける道徳教育を展開する。「凡事徹底」を図り、当たり前のことを当たり前にやるのではなく、当たり前のことを人には真似できないほど一生懸命やる態度を涵養する。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
学校経営	組織的・計画的・継続的な学校運営	人としての在り方・生き方を身に着ける道徳教育を展開する。	A	A	A	・今年度も度重なる行事の見直しを行い柔軟に学校行事に取り組むことが出来た。来年度以降は、今年以上に改善傾向になることを期待し、今年度の反省をもとに柔軟にかつ計画的に進めていきたい。 ・組織的・計画的・継続的な学校運営をすることができ来年度はさらなる飛躍を目指す。 ・「タフ」で「しなやかな」工業人の育成を組織的に展開し、各種運動部の大会、ものづくり大会で実績を残すことができた。 ・今年度は、昨年度に比べ就職試験の1次合格率が向上した。来年度は、さらなる就職の1次合格率アップのため授業規律を見直し基礎学力の向上を目指し1次合格率のアップを目指す。。 ・ホームページの充実を目指し中学生、地域に香椎工業高校の魅力の発信をおこなう。□
		タフでしなやかな工業人の育成を図るため、次世代の工業人教育を根幹に据え、教育目標達成のため、全職員が組織の一員という意識で職務に専念する。	A			
		学科の強みを生かした指導体制を構築し、全職員・全教育活動を組織的・計画的に行う。	A			
	地域社会から信頼される学校づくり	学校の情報化を推進して情報の蓄積と整理を行い、職務の簡略化と継続化を図る。	A	A		
		希望進路100%実現のために、基礎学力を確立し、就職及び進学体制の強化を行う。	A			
		「挨拶、時間・マナー厳守」等の生徒指導を徹底して社会人として通用する人材の育成を行う。	A			

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は
A	A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・コロナ禍における行動様式も含め人としてのあり方生き方の指導を更に深めていただきたい。 ・コロナ禍で行事ができたことは、素晴らしいことで教職員の努力の成果です。 ・SDGsの取組を行ってほしい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部 教務課	基礎学力の定着と応用力の育成	観点別評価・ICTを活用した日々の授業を充実させ、生徒の学力を伸ばす。	A	A	A	・新教務規定の全職員の共通理解と円滑な移行 ・観点別評価完全実施による授業意識向上 ・ICTの有効活用による授業力アップ ・年2回の授業アンケートにより、生徒の学習への取り組みと教員の授業力の向上の明確化 ・年間皆勤者数500名 ・教務課の業務分担の明確化と業務のスリム化	B	・ICTの授業での活用は進んでいるようなので、今後はICTの活用範囲の拡大を図る」ことが、急務であると思います。
		各教科・科目の考査問題の事前点検を充実させ、より学力を付ける問題へ改善を図る。	A					
		教科・学科主任会議を定期的に開催して、各課題解決に向けて連携して取り組むシステムを作る。	A					
	基本的生活習慣の確立	日々の生徒動態やその内容を確実に把握し、年間皆勤者数500名を目指す。	B	B				
		学期1回の考査前家庭学習時間調査を通して家庭学習の時間増を促す。	B					
		朝のHRや学年集会で教務からの内容を積極的に発信し、生活習慣充実化の必要性を理解させる。	A					
教務部 メディア課	広報活動のさらなる充実	年2回の中学校訪問の実施や広報紙・ポスターの作成、香椎駅構内の掲示板を有効活用した広報活動を行う。	B	A	A	・中学校訪問とホームページを活用した積極的な広報活動 ・セキュリティと個人情報の管理強化 ・ICT機器の研修の充実化 ・ネットワーク環境の整備と機材の増設 ・他分掌との連携の強化	B	・時代の流れで普通高校に行く生徒が多い中、広報活動は大変と思いますが、より魅力を発信して志願者の増加につなげてもらいたい。 ・更なるICT教育の推進をお願いします。
		各専門学科との連絡を密にし、出前授業等に10校以上参加する。	A					
		ホームページ（月2回以上更新）やはまお安心メールを用いて、日常の教育活動から緊急時の対応に至るまで幅広く情報を発信する。	A					
	ICT教育の推進と各種管理	福岡県立学校「新たな学びプロジェクト」を推進するための環境整備を図る。	A	A				
		ネットワーク環境の円滑な運用を行い、セキュリティや個人情報の管理を徹底する。	A					
		電子黒板やICT機器の有効活用を進め、利用環境の整備に努める。	A					
生徒指導部 生徒指導課	規範意識の育成	風紀検査及び授業開始時のチェックを徹底して家庭と連絡を密にとり、身だしなみを整える習慣を身につけさせる。	A	A	A	・社会に一番近い学校であることを自覚させ、ルールを守り仲間を大事にする意識を持たせる指導を引き続き行う。 ・登下校の状態に関する情報提供が多く寄せられているため先生方にも指導の協力をお願いし、生徒たちにも注意喚起を促していく。	B	・成年年齢引き下げによる指導をしてほしい。 ・積極的生徒指導の充実 ・通学路が狭いため一斉に通ると混んでしまい近隣の方々が迷惑している。時差通学ができればよい。
		さわやかな挨拶を励行させてコミュニケーション能力を高め、良好な人間関係を構築させる。	A					
		交通安全教室や下校指導を実施し、交通ルールやマナーを意識した行動をさせる。	B					
		毎月、いじめ及び学校生活アンケートを実施して、いじめ撲滅に向けて早期発見・早期解決に努める。	A					
	部活動の活性化	中学校やクラブチームとの情報交換を積極的にを行い、部員数を確保し更なる成績の向上に努める。	A	A				
		部活動の活動報告を掲示板やホームページを活用して広く知らせる。	A					
生徒指導部 保健課	保健管理・健康教育の充実を図る	生徒の怪我や病気、感染症に対して迅速に対応させる。	A	A	A	・全教室にサーキュレーター、自動式消毒器を設置、換気を促し、健康観察シートや健康観察集約表による健康把握、学校行事や日常の感染対策に取り組んだ。今後は生徒が自ら継続して毎日の手洗いや消毒等の感染対策が出来る様になることである。毎日の清掃活動の充実である。	B	・コロナ対策について、物的対応が迅速であった。 ・生徒への意識付けに工夫が必要である。
		生徒の心身の健康・保持増進を図るために、援助や指導を充実させる。	A					
		安全・健康な学校生活を過ごすために自己管理の能力を向上させる。	B					
	環境美化活動の実践	日常の清掃を大事にし、美化活動の充実と徹底を図る。	A	A				
		生徒会や整美委員会の更なる充実を図る。	B					
		古紙分別を徹底し、ゴミの減量・再資源化を促進させる。	A					
生徒指導部 生徒会指導課	学校行事と日常生活の充実	生徒が主体的に各行事の運営に関して計画・立案に関わり主体的に運営できるようにする。	A	A	A	・各行事において、教員の指示により動いている部分があるため、何をすればよいか予め生徒自身に考えさせ、行動するように指導していく。 ・近隣校との親交が少なくなっているので、リモート等を活用して行う。	B	・生徒の主体性育成は大きな課題。 ・部活動加入率の向上を図ってほしい。 ・生徒の代表としての生徒会の活性化を図る。
		学科・クラスのリーダーを早期に発掘し、自主運営させる事で資質・意識の向上を図り、学校行事の成功に導く。	B					
		委員会活動において日常生活における問題点を見つける意識を醸成し、その解決能力を育成する為定期的に委員会活動を実施する。	A					
	地域に対するマナー意識の向上と近隣高校との連携	学期に1回の校内での挨拶運動と、香椎駅を主とした地域の中での挨拶運動でコミュニケーション能力の向上を図る。	A	A				
		委員会が中心となり、学校周辺の清掃活動を行い、地域に貢献する意識を育てる。	A					
		本校を含めた近隣7校で合同役員会を年に2回実施し、生徒会の信仰を深め生徒会役員としての意識の向上を図る。	B					
進路指導部 就職課	早期における進路100%の実現	全職員による面接指導を早期に実施し、11月末までの生徒の就職を決定する。	B	A	A	・1次試験合格者が今年度86.9%と前年度より5%上昇した。 ・インターンシップは一部の生徒のみであったが、実施出来たことが何よりも収穫である。 ・1.2年生に向けて進路意識向上に向け継続して行っていく。 ・コロナの状況によるが、県内外の企業訪問を実施したい。	A	・コロナ禍で就職試験1次合格者が前年より良かったことは、素晴らしい成果だと思います。 ・コミュニケーション能力の向上を図る方法を模索してほしい。
		各学年・学科と共有し、就職1次合格率85%以上を目指す。	A					
		生徒一人ひとりの進路実現に向け就職指導の充実を図り、県内外の優良企業の合格率向上を目指す。	A					
	学年に応じたキャリア教育の充実	外部講師によるマナー指導等の進路学習会を各学年2回以上実施する。	A	A				
		3年生による就職・進学報告会や卒業生講話を充実させ、就業意識の高揚を図る。	A					
		インターンシップや職業インタビューを夏季休業中に実施し、就業意識や社会性を養う。	A					
進路指導部 進学課	進学体制の整備・体系化と充実	進学課外の日程や回数、在り方等を検討し、生徒の基礎学力の定着と充実を図る。	A	A	A	・進学受験先を決定するための早期の面談や受験に向けた指導の体制を構築する。 ・学級担任、専門科、普通科との連携を図り、進学受験希望者への学習や面接、小論文等の指導を強化する。	B	・工業高校から進学するのはハンディ–があるので指導するのは大変だと思うが、様々な工夫により自己実現を達成できるよう期待してます。
		推薦入試等の特徴的な入試に対応する指導計画や体制を構築する。	B					
		昨年度より実施された大学入学共通テストの今後の方向性について情報収集を行っていく。	A					
	個人の能力・適性に応じた進路決定	説明会や面談を通して、生徒一人一人の多様な進路に対応する情報の発信や提供を行う。	A	A				
		校内外での進路行事等への参加を推進することにより、二年次までの志望校決定を目指す。	A					
		各科と連携して個別指導を充実させ、指導方法・内容の蓄積を継続して行うことで、体系的に上級学校への接続を行う。	B					
総務部 研修課	授業力・生徒指導力の向上	メディア課と協力し、ICTの活用力の向上とコロナによる休校等に対応した配信授業の研修や情報提供を行う。	B	B	A	・昨年度、本年度と新型コロナ感染拡大防止により、研修を極力減らして実施したが、来年度は職員の意見を吸い上げ、内容や実施回数等を考え1年間の研修を再構築したい。 ・創立60周年行事に向けて、今以上に香椎工業高校職員としての帰属意識を持った職員集団となるよう多方面からアプローチしたい。	B	・授業配信などのICTスキルの向上をめざしてほしい。
		各科の専門性を高める研修を推進し、お互いに情報を共有する。	B					
		「主体的・対話的で深い学び」に向けて、アクティブ・ラーニングを活用した授業を推進する。	A					
	協働する明るい職場づくり	各科・各分掌の日常の活動で若手教員の育て、お互いに共助・協力・反省できる協働意識を醸成する。	A	A				
		学校のチーム力向上に向けて、運営委員の研修会等を行うとともに、職員間の健康増進とコミュニケーションが図れる研修を実施する。	B					
		10年後、20年後の香椎工業高校を見据えた、次の一手を考える帰属意識を持った職員集団を目指す。	A					
総務部 庶務課	庶務課行事の充実及び円滑な運営	各行事に協力して業務に取り組めるよう、担当者が連絡・説明を確実にする。	A	A	A	・コロナの影響で多くの行事が変更を余儀なくされたが臨機応変に対応することができた。 ・来年度も多くの行事が予定されているので他の分掌とも連携しながら行事の活性化に努めたい。	A	・特になし
		昨年度の反省をもとに、各行事の工夫・改善を行うとともに、行事ごとに反省アンケートを実施する。	A					
	PTA活動、行事の活性化	PTA役員会、委員会と学校職員との連携を密にしPTA行事の充実を図る。	A	A				
		各委員会の自主的活動の推進・支援を行い、活性化を図る。	A					
		一般保護者の各行事への参加10%増を目指し、役員会・各種委員会と連携して行事の企画・運営をする。	B					
1学年	基本的生活習慣の確立	欠席・遅刻指導を徹底する。年度末で75%の皆勤を目標とする。	A	A	A	・基本的生活習慣については継続して指導を行っていく・学力向上及び進路実現に向けた取り組みを具体化して取り組む・進級する意識を高く持たせ、中堅としての学校生活の見本となるような行動を身につけさせる。	A	・入学の最初が重要です。人としての基本を厳しく指導してください。
		授業や学校行事等を通して、協力する・ルールを守る・他者を思いやる生徒の育成を目指す。	A					
		身嗜みとさわやかな挨拶の励行を指導する。	A					
	基礎学力の育成	授業規律の確立を図る。教科担任・各分掌・保護者との連携を図り、問題点に対し早期に対応する。	A	A				
		各教科の基礎・基本となる学習内容を授業の中に日常的に取り入れ、学力向上に努める。	A					
		3年間を見据えた指導を早期から計画的に行い、進路指導部や各学科と連携しながらキャリア教育の充実に努める。	B					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
2学年	基礎力の育成	挨拶の励行や時間の厳守など徹底した生徒指導を行い、規範意識を高める。	B	A	A	・最上級生として、各行事で学校を牽引できるリーダーの育成を目指す。 ・進路決定に向けて生徒一人ひとりに最大限の努力をさせる。そのために教科指導を徹底し、集中して授業に臨ませる。個人面談を適宜行い、進路決定への指導・助言を行う。	A	・入学直後からコロナの影響で通常の行事を経験していないので、日常の工夫で補ってもらいたい。
		学習環境を整え、規律ある授業態度を育て、自ら学ぶ力を育成する。	A					
		成績不振者の指導を日常的に行い、全員が進級できるよう努める。	A					
	自己実現に向けた取組の実施	「インターンシップ」や「修学旅行」などへの取り組みを通し、就業意識や社会性を高める。	B	A				
		進路指導部と連携し、就職や進学の指導を行い、次年度のスムーズな進路実現へとつなげる。	A					
		担任を中心に学年団・各科と連携して、生徒一人ひとりに目を向け、手厚い指導・助言を行う。	A					
3学年	最上級生としての自覚を持って行動する	最上級生としての役割を認識し、自覚させ、率先した行動がとれる人材を育成する。	A	A	A	・最上級生として、体育祭等の学校行事において後輩の模範となれる生徒が多く育った。 ・就職試験一次合格率86%を達成し、より多くの生徒が自己実現に向けて努力できた。しかし、進路決定後に遅刻や欠席が増えているため、3年間通して学校生活の大切さを伝えていきたい。	A	・2，3年次にコロナ禍であったが先生方との信頼関係のもと、学校に対する誇りを持てる様になったと感じる。
		挨拶を基本とするコミュニケーション能力の向上を図り、考えや意図が相手に伝わることのできる生徒の育成を図る。	B					
		様々な面で後輩たちの模範となり、母校および後輩に恩返しの想いを持てる上級生としての資質を養う。	A					
	自己実現への推進	就職内定100%早期決定、一次合格率85%を目指し、試験対策を積極的に行わせる。	A	A				
		進路指導部と専門5科との連携を密にとり、進学・就職の情報を共有する。	A					
		進学希望者の課外出席率の向上を目指し、進路実現に向けて努力させる。	B					
電気科	基本的生活習慣の定着と特色のあるキャリア教育の充実	学校内外における挨拶の恒常化と遅刻・欠席者に対し、手厚い指導を行い、前年度比80%以上の遅刻・欠席者数減に努める。	B	A	A	・第1種・第2種電気工事士合格人数前年比1.5倍以上を達することができた。来年度へ向けて第1種電気工事士及び第3種電気主任技術者の合格数を伸ばす取り組みを検討する。 ・中学校出前授業、中学校体験入学の実施内容を検討し、中学生の興味・関心を引く内容に改善する。	A	・基本的な科になるので基本をしっかり教えてほしい。 ・基礎学力の向上をしていただき資格取得の向上をお願いしたい。 ・専門性を追求してほしい。
		生徒個々の進路実現のため、積極的な資格の取得を推進し、中核となる第1種・第2種電気工事士の合格率前年度比の1．5倍以上の合格者数を目指す。	A					
		進路関係行事等を通じて生徒の進路意識を高め、進路実現に対して主体的に取り組む姿勢・態度を育成する。	A					
	魅力ある授業の展開と学科の広報活動の充実	「わかりやすい授業」の実施のため、ICTを積極的に活用した指導方法、指導体制の工夫改善を図る。	A	B				
		「5月病をふきとばせ」、「電気工作教室」などの地域交流活動を通じて、本校・本学科の広報活動に貢献するとともに、地域社会の発展を担う人材を育成をする。	B					
		中学生対象の出前授業、中学生体験入学における実施内容を魅力的なものに改善し、本学科の取り組みを発信する。	B					
機械科	機械技術者としての基礎・基本の徹底	教室の私物や実習工場で使用する工具や材料等の整理・整頓を通して、安全作業に対する意識の向上を図る。	A	A	A	・ジュニアマイスター取得者は70名を超え、目標を達成できた。 ・機械科広報については、HPの更新を多く行い外部への発信を強めた。 ・はまおスクールでの機械科希望者が例年より少し減少した。来年度については新しい内容で中学校、地域への広報に力を入れて行く。	A	・基本的な科になるので基本をしっかり教えてほしい。 ・基礎学力の向上をしていただき資格取得の向上をお願いしたい。 ・専門性を追求してほしい。
		実技の授業を中心にメモを取らせ丁寧にレポートをまとめる指導を通して、読解力の基礎作りを行う。	B					
		爽やかな挨拶返事を習慣化できるよう、機械科職員全員で意識付ける。	A					
	学科のPR活動の充実	資格取得に積極的に取り組ませ、ジュニアマイスター取得70名以上を目標とする。	A	A				
		はまおスクールなどのPR活動の際、機械科に入学したくなるよう魅力的な情報提供や企画を考え、機械科の入試志願倍率を1．2以上にする。	B					
		HPを利用して機械科の活動を紹介し、更新4回以上を目指す。	A					
工業化学科	基本的生活習慣の確立	社会人としてのマナーやモラルを身に付けさせる。	A	B	A	・資格取得に関しては、各学年クラス単位での担任団の指導が中心であったが、今後は科としてどのような資格取得に重点を置くか整理し、方向性を示す必要性がある。 ・実習についても年間で系統的な計画を立てていく必要がある。 ・中学校出前授業については積極的かつ効果的に実施出来た。	B	・地球環境を考えたSDGsに取り組んでもらいたい。 ・基礎学力の向上をお願いしたい。 ・広報活動や在校生の学校生活を充実させ受検者の増加を図ってほしい。 ・専門性を追求してほしい。
		欠席・遅刻・早退の減少を目指す。出席率の向上を目指す。	B					
		頭髪・服装・挨拶等の指導を全職員で行う。	B					
	進路実現と資格指導の充実	生徒の希望と適性に応じた進路指導を行い、第一希望の進路実現を目指す。	A	A				
		資格取得に向けた動機づけと計画的な指導を実施していく。	A					
		ジュニアマイスター取得の人数を増やすべく指導を行っていく。	B					
情報技術科	社会人に求められる人間性の育成	挨拶の励行、身だしなみ、言葉遣い等の指導を日常的に行い社会人としての規範意識を育てる。	B	B	A	・生徒たちは一年間を通し良く頑張っていた。残念ながら一部の生徒で遅刻が見られた。 ・クラスマッチ、体育祭を通じクラスや科の連帯を強めることが出来、改めて学校行事の有効性を感じた。 ・三年生の約半数がITパスポートを取得し、かつ基本情報の合格者を二名出すことができ、資格取得にもよく頑張っていた。	A	・基礎学力の向上をお願いしたい。 ・進学に力を入れていただいて4年生大学にも挑戦していただきたい。 ・専門性を追求してほしい。
		学校生活や行事を通じてお互いの理解を深め思いやりの心を育てるとともに学科や学校への帰属意識を育てる	A					
		インターンシップや工場見学を通じ就業意識を高めるとともに面接指導を通じて自己啓発を行う	B					
	学力の向上及び資格試験等に自ら取り組む姿勢を育てる	教師間で連携し情報を共有することで、生徒個々の適性に添った教科指導を行う。	A	A				
		関連する座学と実習を連携し効率的に資格指導を行う。在学中にITパスポート全員取得を目指す。	A					
		教師各々が研修に励み自身の専門性を高めつつ指導方法の工夫改善に日々務める。	A					
電子機械科	基本的生活習慣、授業規律の確立と進路指導の充実	普段より保護者との連携を密にし、生徒が遅刻・欠席をしない指導を徹底する。	A	A	A	・挨拶の声量が乏しいので、座学の挨拶だけでなく、実習の時間でも日頃から指導を行い習慣を付けさせる必要がある。 ・学科職員全員の情報共有を高められるよう学科会議の頻度を増やす。	A	・基礎学力の向上をお願いしたい。 ・進学にも力を入れてもらいたい。 ・メカトロニクス技術の専門性を追求してほしい。
		授業開始と終了時の大きな声での挨拶を励行し、集中して授業を受ける指導を継続する。	B					
		生徒一人一人が希望する進路実現に向け学科全員で指導にあたる。	A					
	資格取得の指導体制の充実と合格率の上昇	資格取得のための指導体制を充実させ、昨年度以上の各種資格試験合格率を目指す。	B	B				
		1年生全員が受験する計算技術検定3級、情報技術検定3級の全員合格を目指す指導を行う。	B					
		生徒の特性に合わせた資格の取得に自主的に取り組ませ、ジュニアマイスター取得に向けて自ら意欲的に努力する態度を育てる。	A					
普通科	確かな学力と人間性の育成	ICTの活用やアクティブラーニングを通して、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。	B	A	A	・ICT研修で学んだことを活かして、ICTを活用した授業を積極的に展開していく。 ・教員間、教科間でICTの授業活用例を互いに共有することで、ICTの積極活用につなげる。 ・進学課との連携を図り、進学希望者の学力や受験時の面接等の支援を行う。	A	・専門高校なので、科としての立ち位置は難しいものであると思うが、基礎学力は全生徒が身に着ける必要があるので、授業の工夫やICT活用をお願いします。
		習熟度別授業や個別の指導を通して、生徒一人一人の学習支援を充実させる。	A					
		挨拶や容姿、学習に向かう姿勢等の授業規律を通して、人間性の育成を行う。	A					
	教科指導を通した生徒の進路実現の支援	進路指導部や各専門科と連携し、就職や進学に関する情報を取り入れ、進路指導に役立てる。	B	A				
		教科・科目の特長を生かし、進路実現のための支援を行う。	A					
		基礎学力の定着に加えて、応用力を伸ばす授業を行うことで学力向上を図る。	A					
事務室	適切な会計事務処理とコロナ対策の実施	会計事務処理について法令・規則の遵守を徹底する。	A	A	A	・適切な会計事務処理を行うとともに、節減や、感染症等の社会状況に柔軟に対応し、予算の効率的な執行に努める。	A	・外部からの電話対応の改善をお願いしたい。
		節減を実施し、予算の効率的な執行を行う。	A					
		職員室と連携し、新型コロナウイルス感染症防止のための対策を適切に実施する。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・ICT機器を充実しICTの更なる活用をする。
・多様な進路に向け基礎基本に戻った基礎学力の向上を目指す。
・コロナ禍をきっかけに学校行事の精選をする。
・地球環境を考えた実習の改善を目指す。
・生徒の興味・関心を刺激し専門性を強化する。

評価項目以外のものに関する意見

・コロナ禍でも、着実な取り組みで成果を挙げられているのに感服しております。
・コロナの影響で学校生活が希薄になっているのではないかと心配しています。担任の先生方のご指導をおねがいします。